

目指す学校像	美園小の新たな伝統を築き上げ 美園の地に信頼を土台とした子ども一人ひとりが輝ける学校
重点目標	1 「学びの自律化」「学びの個別最適化」「学びの探求化」を図りこれからの時代に求められる資質・能力を育成する 2 安心・安全な教育環境を整備し、人間性豊かな子どもたちを育てる 3 地域とともにある学校づくりの推進 4 教職員の資質向上を図り、持続可能な教育活動を実践する組織づくり

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標					年 度 評 価			実施日令和 年 月 日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	○昨年度の市学習状況調査の結果では、現4年～6年において大きな差異はなく、概ね市平均と同等の状況である。但し、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」において課題が見られる他、学びに向かう力に関するアンケート項目においても国語を中心として意識が低い傾向がみられる。 ○ICTを活用した学びでは、ICTを活用する優位性への理解や、実際の活用も行われている実態は見られる。しかし、有効的な活用というでは、授業中心に課題が見られ、児童がICTの活用の有効性を実感できるような授業改善が必要とされる。 ○教科担任制は、5年及び6年で実施している。5年は一部教科、6年では5年よりも更に拡大して実施している。担任以外の教員が多数関わることにより児童理解等での効果が見られる。	・ICT環境を最大限に活用した学びの充実	①学校課題研修を中心に、ICT環境を最大限に活用した主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を図る。 ②学校での学びと家庭での学びの連続性を重視する。 ③「さいたま市スマートスクールプロジェクト」開発協力校として、「学び方」「教え方」「働き方」の更なる改革の推進に寄与する。	①ICTを活用した実践の検証を昨年度以上に図るとともに、実践事例の収集と活用が図れたか。 ②家庭学習において、学校との関連を図った取組をICTを活用して実施することができたか。 ③ICTを活用することで、授業改善や業務改善を図ることができたか。				
		・教科担任制による学習指導と生徒指導の質的向上	①専門性を深める授業を実践する。 ②多面的な評価とそれに基づく指導の充実を図る。	○教科担任制の効果検証を実施し、次年度の教育計画に効果を反映させることができたか。				
		・「さいたまSTEAMS教育」の実践	①{STEAMSタイム}の確実な実施と改善を図る。	①指導計画通りの実施ができたか。 ②実施の検証を行い、次年度指導計画に反映させることができたか。				
2	○ポストコロナを意識して、制限をはずした教育活動が展開されつつある。どこまで制限を外して行うか、従来のやり方の効果を十分に吟味した上での内容検討が実施されている。 ○学校教育目標の「きれいな学校」を維持しようとする意識は、児童及び教職員には浸透している。但し、施設の老朽化が徐々に始まり、施設の維持、緑化環境の維持では、金銭的な問題も絡んで難しくなってきている。 ○児童全体では、規範意識や相手を尊重する意識は、ある程度高い状況が見られる。しかし、些細な事でのトラブルも多くなりつつある。	・安心・安全で快適な教育環境づくり	①ポストコロナの状況を見据えた教育活動の実現を図る。 ②学校にふさわしい環境の整備と維持を行う。 ③危機管理意識を高めた対応の充実を図る。	①十分に吟味された内容で教育活動が展開されているか。 ②校舎内外の環境整備が図られているか。 ③児童及び教職員の危機管理意識を高めることができたか。				
		・子どもたちの豊かな人間性を育むシステムづくり。	①共通理解と共通行動による生徒指導を実施する。 ②コミュニケーション力の育成・充実を図る。 ③一人ひとりの児童のWeii-beingを大切にする支援の充実を図る。	①生徒指導委員会を中心に一致した生徒指導、対応、支援を組織で行うことができたか。 ②挨拶や他者理解等コミュニケーション力を育む指導を実施できたか。				
3	○学校だよりや安心メール、諸会議等を通じて、学校の情報を積極的に発信している。また、それらを通じて、連携の強まりが見えるようになっている。これから、更なる強固な連携へと発展させていきたい。 ○昨年度の学校運営協議会では、「『あいさつ』から広がるあたたかな街づくり」プロジェクトを実施し、地域、保護者と学校との連携や小学校と中学校の連携、児童生徒の意識の向上等の成果が見出されている。これを基として、活動の維持継続、展開の拡大を図ることが求められている。	・保護者・地域への情報発信を通した開かれた学校づくり	①学校だより、ホームページ、学年通信、学校安心メール等を効果的に活用する。 ②「学力向上ポートフォリオ」を通した現状理解と手立ての明確化を行う。	○様々なツールを最大限に活用して情報発信を行い、本校への理解を深めてもらうことができたか。				
		・地域に根ざした教育の推進。	①合同学校運営協議会、スクールサポート・ネットワークを核にし、学校と保護者、地域が協働した子どもの成長を支え、地域社会作りに寄与するシステムの構築を更に進める。 ②コミュニティ・スクールとして小中合同活動と美園学習の実践を進める。 ③防犯ボランティア等関係機関との連携の充実を図る。	①学校運営協議会の取組を拡大させ、また、SSNの取組を基にして、協働しての体制づくりを行うことができたか。 ②防犯ボランティア等学校安全ネットワークの連携を基に、児童の登下校の見守り体制を確立し、児童の安全確保を行うことができたか。				
4	○若手教員や経験の浅い教員が多くなり、教科指導や児童理解、生徒指導、学校運営と様々な懸念が生じている状況は見られる。また、それらの問題に対応するために、年次研修や学校課題研修等様々な場を活用し、資質の向上を図っている。 ○メリハリのある働き方や終業時刻を意識して業務に取り組む等、少しずつ働き方改革への意識は浸透してきてはいる。但し、終業時刻原則18時30分、学校閉庁時刻20：00を守る処までは至っていない状況がある。	・教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上	①教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上を図る。 ②教職員一人ひとりの専門性を深めるための教科担任制や専門性を生かす学年内分担を実施する。 ③ベテラン・中堅教員から若手教員等経験が浅い教員へ教師力の伝承を行う。 ④確実な「報告、連絡、自分の考えや見通しをもった上での相談、見届け」を基盤とした組織的対応を日常化とする。	①様々な取組から、個々の教職員が資質・能力の向上を実感としてとらえることができたか。 ②学校における課題において組織としての対応を実施し、その実践を基に資質・能力の向上を実感することができたか。				
		・働き方改革の推進	①持続可能な働き方の模索と意識改革を図る。 ②終業時刻原則18時30分等を意識したメリハリのある働き方を実践する。 ③効率的な学校運営を推進する。 ④業務の平均化と協働意識を醸成する。	①時間外在校時間等を意識して、持続可能な働き方を個々に考え、実践することができたか。 ②学校全体として業務の平準化、効率化を図ることができたか。				